

参加申し込み要領

■参加費 3,000円

(学部学生・大学院学生・記念講演のみ参加者1,000円)

■宿泊費等(会員・非会員の区別なし)

【1泊朝食付き】 6,600円
8/5・夕・弁当 1,000円
8/6・夕・交流会 6,500円

8/6・7の昼食は大学生協食堂等にて各自でおとりください

■申し込み方法

Step 1
技術教育研究会
第52回大会参加申込の
入力フォームから申し込みを行う
<https://forms.gle/Qn4brzgJb9E32nsQA>



Step 2 参加費+宿泊費の振込

専用の郵便払込取扱票に必要事項を記入して、お近くの郵便局から参加費と宿泊費の合計金額をお支払いください。お手元に払込票がない場合は、郵便局備え付けの青色の振替払込票をご利用ください。振込手数料はご負担ください。

お申し込みの確定は、参加費等が振り込まれた時点となります。お支払い後、お申し込みをキャンセルされた場合は、旅行会社規定と同様に扱います。

払込番号：00210-9-138115

払込先名：技教研大会(ぎきょうけんたいかい)

※インターネットバンキング等から送金の場合は、参加者氏名を必ず入れてください。

参加申込・入金締切、7月26日(金)厳守

※全国大会を通して、ホテル宿泊を申し込む方は6月30日(日)までに参加申込みをするか下記の連絡先にFAXまたは電子メールでご連絡ください。

Step 3 事務局から申込受付完了をメールまたは電話で連絡します

■問い合わせ・連絡先

技術教育研究会第52回全国大会事務局
大会実行委員長 丸山 剛史
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学教育学部
TEL/FAX: 028-649-5336 (研究室直通)
E-MAIL: marusan@cc.utsunomiya-u.ac.jp
※授業・会議により研究室不在の場合も多いので、電子メールあるいはファクシミリでご連絡ください。電子メールの場合は「件名」に「技教研全国大会について」と明記していただくと助かります。

■発表資料等について

(1) 発表資料は、内容別分科会は80部、問題別分科会は20部ご用意ください。資料は、A4またはA3サイズで作成ください。

(2) 会場に資料を送る場合は上記連絡先の丸山宛に技術教育研究会(〇〇〇〇:お名前)とご記入の上、前々日8月2日(金)までに現地に必着となるようにお送りください。

(3) 出張依頼状が必要な方は返信用封筒(送付先等を入力し、82円切手を添付してください)を同封した手紙を大会事務局までお送りください。決められた様式がある場合はお申し出ください。

■会場施設

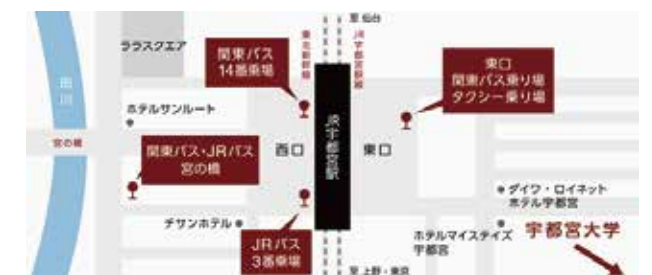
・大会会場 宇都宮大学峰キャンパスUUプラザ
〒321-8505 宇都宮市峰町350
URL <https://www.utsunomiya-u.ac.jp/>
・宿泊先 ホテル・ニューイタヤ
〒320-0811 宇都宮市大通り2-4-6
電話 028-635-5511 (代表)
URL <http://newitaya.com/>

■交通アクセス

JR東京駅-JR宇都宮駅 東北新幹線で約1時間
路線バス 関東自動車 JR宇都宮駅西口バスターミナル14番乗り場より真岡行、益子行、海星学院行、卸団地循環、ベルモール行などに乗車。乗車時間約15分「宇都宮大学前」下車。220円

JRバス関東 JR宇都宮駅西口バスターミナル3番乗り場より清原台団地行、芳賀町役場行、祖母井行、茂木行、ベルモール行などに乗車。乗車時間約15分「宇大前(うだいまえ)」下車。220円

関東自動車 JR宇都宮駅東口バス乗り場3番乗り場より宇大循環線(左回り)、柳田車庫行、ベルモール行などに乗車。乗車時間約10分宇都宮大学前下車。170円



技術教育研究会 第52回全国大会 宇都宮大会案内

国民のための技術・職業教育の創造を!

—すべての子ども・青年を持続的発展可能な社会の主人公に—

日時：2019年8月5日(月)～7日(水)

場所：宇都宮大学(峰キャンパス)

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
電話/FAX 028-649-5336
(技術教育研究会第52回全国大会事務局直通)

主催：技術教育研究会 後援：栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会

記念講演

風力発電の歴史—デンマークの教育を中心に—

講師 牛山 泉 (足利大学理事長)

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
大会日程	5日(月)				受付 開会 集会	記念講演	実技・理論 講座①	夕食 (弁当)	実技・理論 講座②				
	6日(火)	内容別分科会	昼食	内容別分科会		総会			(ホテルへ移動) 交流会				
	7日(水)	問題別 分科会	閉会 集会	昼食	地域の技術 見学会								

■大会参加へのお誘い

大会実行委員長 丸山剛史 (宇都宮大学)

技術教育研究会(略称:技教研、[ぎきょうけん])は、国民的立場からひろく技術教育の理論と実際を研究することを目的に、1960年に設立された自主的な研究会です。1968年以降年に1回、全国大会を開催してきました。2019年は、栃木県で第52回全国大会を開催することになりました。

栃木県は中世においてキリシタン宣教師により「日本国中最も大にして、最も有名」な「坂東の大学」として西欧に伝えられた足利学校が設置さ

れた教育ゆかりの土地であり、技術教育に関してもわが国の中等工業教育機関の先駆である足利織物講習所(後の栃木県立工業学校、現在の栃木県立足利工業高等学校)が設置されました。また、公害史でも有名な足尾銅山鉱毒事件が発生した土地でもあります。このように教育・技術・技術教育ともゆかりのある土地で参加者の交流により、技術教育の明るい未来を展望したいと思っています。みなさんのご参加をお待ちしています。

技術教育研究会

代表委員：長谷川 雅康 (鹿児島大学名誉教授)
事務局長：辰巳育男 (東京工業大学附属科学技術高等学校)
事務局：〒168-0081 東京都杉並区宮前4丁目25-23-106 辰巳育男 方
TEL 050-3562-5381 Email: itatsumi@hst.titech.ac.jp
Webサイト: <http://www.gikyoken.com>

基調報告：技術教育研究会常任委員会

記念講演：風力発電の歴史 —デンマークの教育を中心に— 牛山 泉 (足利大学理事長)

実技・理論講座 (16:00 ~ 20:00)

以下5つの中から2講座を選択し、ご参加ください。定員がある場合は、申込先着順となります。

1. ボール盤大研究

講座受講のみは指定なし

工業高校機械系の教員がボール盤にしぼって研究する実技講座です。正しい使い方からメンテナンス方法、面取りカッターやステッピングドリルなどの工具も紹介します。教材づくりに役立つアクリルの加工法についても紹介し、製作体験を行います。

- ◎樋口和也 (東京都立六郷工科高校) 製作10名
◎辰巳育男 (東京工業大学附属科学技術高校) 材料費500円

2. 蒸気タービンの製作と走行試験

20名前後

蒸気力で動く車のタービン部分の製作と、蒸気の通り道である銅パイプの加工を行い、実際に走行試験を行います。仕組みは単純ですが、走らせるために「蒸気」や「タービン」といった重要な要素を上手く組み合わせる必要があります。熱中すること間違いなし!

- 必要な持ち物: ①プラスドライバー, ②はんだごて, ③ラジオペンチ, ④ニッパ, ⑤はさみ
◎樋口大輔 (静岡県裾野市立西中学校) 材料費2,000円

3. 授業で笑顔が見える教材作り

持ち物: なし

生徒が楽しみ笑顔が見える授業。物があれば誰でも出来ますよ。そんな教材を作って授業が楽しく感じてみませんか。2進数の暗号で遊ぼうやあるないカード・ストローロケット・色の原理など作った教材を見せて生徒が笑顔になる授業をしてみませんか。

- ◎児島高徳 (愛知県立刈谷工業高校) 定員6名

実技講座

理論講座

1. 最近のアメリカの技術教育教科書の内容とその特徴について

—「情報通信技術」の部分を中心に—

◎横尾恒隆 (横浜国立大学)

現在、日本の中学校技術科の「情報に関する技術」「情報の技術」は、コンピュータに関する内容のみに限定され、この教科の役割の一つとして「コンピュータ教育」としてのそれが期待されています。しかし諸外国の技術教育教科書をみると、「情報通信技術」分野の内容が、コンピュータやインターネットに関するものに限定されず、電話、ラジオ・テレビ放送、通信衛星など様々な情報通信技術に関する説明が取り上げられている事例もあります。そのような事例は、「技術科をコンピュータ教育化しない」という従来からの技教研の主張に合致したものといえるでしょう。こうした問題意識から本講座では、「情報通信技術」の分野を中心に、アメリカの技術教育教科書の内容を検討したいと思います。

定員なし
持ち物: なし

2. 馬頭高校水産科の教育

◎講師: 馬頭高校教員

栃木県立馬頭高等学校水産科は、内陸県に設置された全国唯一の水産に関する学科です。同科は淡水魚の養殖について専門的に学ぶ機関として1972年に設置されました。時代の変化に対応しながら水産食品加工や水圏環境に関する学習内容を加え、半世紀近く水産教育に取り組んできました。「課題研究」では、共食いがひどく養殖は不可能といわれてきた「ニホンナマズの種苗生産法の確立」、当時、国の機関でしか成功していなかった「ニホンナギの人工採卵・ふ化」、地元那珂川町に普及している「休耕田を利用したホンモロコ養殖」、全国の水産高校に先駆けて成功した「キャビアの生産」等、多くの関心を集める研究が成果を上げています。講座では近年のカリキュラムと生徒の学習の様子を紹介します。

定員なし

A・Bの分科会に分かれて以下の内容を行います。

A 小学校・中学校の技術教育

代表世話人: 坂田桂一、浅沼公博、井川大介、木下龍

● 子どもの学びの姿と教師の想いから、これからの技術教育を考えよう

「正確につくることの大切さを学んだ。少しでもミスをする、全とうまくいかない、正確にしなければいけないと思った」これは授業を通して技術そのものの奥深さに気づいたある子どもの言葉です。本分科会ではこのような技術教育を契機とした子どもの気づきや学びを大切にしています。日々の子どもの成長や教材・教具から日頃の悩みや失敗談等まで、レポートを持ち寄り、明日の授業をともにより良くしていきませんか。小学校の様々な教科での実践や、材料と加工、エネルギー変換、食糧生産、制御と通信、生産と製図等の実践報告の他、条件整備や教員養成問題等、広く交流する予定です。



B 高校・高専・高校後の技術・職業教育

代表世話人: 竹谷尚人、高岩千尋、辰巳育男

● 教育実践を柱として全国の先生方との交流を深めよう

専門学校、普通高校の情報・技術・職業教育、高専、専修(専門)学校、特別支援学校、大学、職業訓練校などの課題を次の4つに大別し、研究討議します。1) 全国各地の専門高校・総合学科の問題(統廃合、教育条件整備、教職員の待遇、行政の施策) 2) 専門高校の専門性確保のための授業づくり、楽しい授業の紹介・交流

3) 高校を中心にした全国各地の進路指導・職業指導の取り組み、意見交換 4) 高校卒業後の技術・職業教育 ここに挙げた以外にも、技術・職業教育に関連するテーマのレポートを広く募集しています。レポートをいただける方、質問等は竹谷までご連絡ください。 hisato@v7.com

総会 (17:30 ~ 19:30)

1年間の活動を総括し、次年度の活動方針を検討します。ふるってご参加ください。

交流会 (19:30 ~ 20:30)

夕食を兼ねて参加者全員で交流を深めます。地域サークルやお国自慢など盛りだくさん。

C 技術史と教育

[石田正治、長谷川雅康]

この分科会では、技術史を教材化して、学習がより身近になる事例を交流するほか、諸外国の博物館などの見聞を共有しています。予定する報告は、茨城県自然博物館を見学して材料化学の授業を再構成、世界遺産のイギリス・ブレナフォン産業景観等です。

D 諸外国の技術・職業教育

[横尾恒隆、西 美江、木下 龍]

諸外国の技術・職業教育はどのように行われているのでしょうか。2カ国ほどの動向を、国内の課題を見据えつつ、国際的な視野で検討します。

E 子ども・青年の発達と技術・職業教育

[坂田桂一、直江貞夫、平館善明、]

厳しい社会・労働環境のなかで生きていく子ども・青年の健やかな発達を促す手だてを探るために、彼・彼女らの抱える発達課題や社会的諸課題を、技術・職業教育の観点から検討します。

F 技術教育の授業づくり

[吉澤康伸、長嶋秀幸、川俣 純]

参加者による教材・教具、授業実践の紹介や議論から、楽しく分かる授業を追求します。また、授業づくりの悩みや相談など、何でも気軽に話せる分科会を目指します。初参加、学生、若手の先生方も大歓迎です。

G 障害児・者の技術・職業教育

[井川大介、尾高 進、池田由美子]

一人ひとり教え方が違うから、日々の授業をどうしようと必死に悩みますよね。子どもたちが様々な教科等で学ぶために、相談しあえる分科会です。自分の悩みや疑問は、初歩的すぎるから相談ができないという方におすすめの分科会です。

H 技術・職業教育の教員養成

[内田 徹、疋田祥人、田中喜美]

技術教育の教員養成をめぐる国内の政策動向、特に工業科教員免許状取得のための特例措置の廃止についての検討や、各大学での実践交流を行いたいと思います。教員養成に興味・関心のある方は、どなたでも歓迎いたします。ご参加下さい。

閉会集会 (11:00 ~ 12:00)

● 内容別分科会の報告 ● 参加者からの感想 ● 大会総括

地域の技術見学会

(13:00 ~ 16:00)

*現地までの移動を含む。

栃木県立馬頭高等学校水産科施設見学 定員30名。全国唯一の淡水魚養殖専門の水産教育施設を見学します。貴重な機会を提供していただきましたので、お見逃しなく! 移動にはバスを予定しております。